

目的 スカートの開閉寸法および形が、体温調節反応にどのように影響するかを知るために次の実験を行った。

方法 スカートはFIT方式を用い、材料トワールで作製した。開閉寸法は人体開閉寸法+2cmと-4cmで、形はタイトとフレアーである。

被験者は青年女子学生4名で、34°Cの人工気象室に入室し、椅坐安静位で温熱平衡に達した後、コントロールとしてスカートを着用しない状態で、皮膚温、直腸温、体重減少量、酸素消費量、スカート内温度を10分間測定した。次にスカートを着用して同項目を30分間測定し、これを4種類のスカートについて繰返した。スカートの割り付けはランダムで、同一被験者について2度実験を行った。

### 結果

(1) 体重減少量は、開閉寸法が+2cmと-4cmのスカート間に差がみられた。すなわち+2cmのスカートではコントロール値に比べて体重減少量が増加したが、-4cmのスカートでは減少した。

(2) 酸素消費量はコントロール値に比べて、-4cmのスカート着用時に減少の傾向が観察された。